

河川砂防技術研究開発公募(地域課題分野)平成22年度採択テーマ

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
メソ気象モデルを用いた仮想現実降雨の生成とこれを用いた河川流況予測(研究期間:H22年~H23年)	京都大学 石川 裕彦	A
<研究概要> 淀川水系に大量の降水をもたらした1979年16号台風について、台風経路がずれたときに淀川水系に降り得る可能最大降水量と、この台風が温暖化環境下で来襲したときの可能最大降水量を、メソ気象モデルを用いた仮想現実降雨シミュレーションで求めた。さらに、その結果を分布型流出・氾濫モデルに入力し洪水・氾濫予測計算を行い、地球温暖化時に淀川水系で最悪でどの程度の洪水が起こりうるかを推察した。		
<事後評価コメント> 本研究は、台風の位置をずらす事により異なる台風経路を作り出し、被害発生状況の変化を把握する新しい手法によるものであり、実験結果は気候変動への適用策を考えるための基礎情報として、様々な応用的な利用が期待できる。以上より、研究目的は達成され、十分な研究成果があったと言える。		

※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い